

46 年度から普通会员の会費改正についてお知らせ

(昭和 46 年 1 月 21 日の臨時評議員会にて議決)

昭和 41 年度に会費の改正をお願いしてから満 5 年になりますが、以来年々相つく物価の昂騰、人件費の上昇、公共料金の値上げなどによって、学会の所要経費は年ごとに増加の一途をたどっています。

一方収入面においては、会員の増加による増収、刊行物の売上高増加による増収、広告料金の増収等をはかるほか、極力経費の節減に努めておりますが、支出増加には追いつけず、45 年度は相当の赤字を生ずるまでに追込まれました。

諸物価や賃金の騰勢のおよまぬ今日、会費の値上げをお願いしなければならないことは、まことに心苦しい限りであります。何卒、学会経費の窮状をご賢察下され、ご理解とご協力を切にお願い申し上げます。

なお特別会員については、目下等級の格上げ、新規入会による会費の増額をお願い中でありますので、今回は会費の改正を見送ることと致しましたのでご了承下さい。

改正会員会費 (46 年 4 月より)

正 会 員	(沖縄を含む)	年 額	3 600 円	(現行	2 400 円)
同	(外地会員)	"	15 米ドル	"	10 米ドル)
学 生 会 員	(沖縄を含む)	"	1 800 円	"	1 200 円)
同	(外地会員)	"	7.5 米ドル	"	5 米ドル)

(特別会員は従来通り)

会費値上げのやむを得ない実情を要約して申し上げます。

1. 会費に対する見返り支出額

44 年度の決算から計算しますと、次表のように正会員では年会費 2 400 円に対して 2 809 円の支出、学生会員では年会費 1 200 円に対して 2 373 円の支出となっています。45 年度はさらにこれを上まわる数字となることは明らかです。

種 別	学 会 誌 費	名 簿 費	支 部 交 作 金	経 費 計	会 費 (年)	見 返 り 率
正 会 員	2 373 円	207 円	229 円	2 809 円	2 400 円	117%
学 生 会 員	2 373 "	0 "	0 "	2 373 "	1 200 "	198 "

(名簿は 2 か年に 1 回につき半額を計上した)

2. 土木学会の収入源

当学会の収入源の主なるものは、会費、広告収入、および刊行物販売益金であります。

会員会費は現状では会員の増加により約 290 万増加いたしますが、広告収入はこれ以上の増収は見込み薄であります。刊行物の販売益金は年々印刷製本費および間接費の昂騰により減少の傾向にありますので、今後広告宣伝に努めて、販売量の増加をはかるべく、一段と努力したいと存じます。なお 44 年度の決算では、会費収入総額(正会員、学生会員、特別会員)が、普通会計の収入総額(出版と委託研究を除いたもの)に対する割合は 59% となっています。

3. 45 年度は欠損見込み

昭和 45 年度の予算は当初から赤字予算であり、普通会計、出版会計を通じてなお約 200 万円の赤字予算でありました。この赤字は前年の繰越金を繰入れて収支のバランスをとったのでありますが、45 年度の決算見込みは、赤字がさらに増加する見込みであります。これは給与のペースアップや、諸物価、印刷製本費等が予想を上まわったためであります。

4. 各種の値上り

すでに新聞などで報じられているように、公共料金をはじめ、人件費、諸物価の騰勢はやまない情勢にあります。当学会経理に直接影響の大きいものをあげて見ます。

(1) 郵便料金：郵政省は本年7月から第3種郵便物の値上げを行なうと報ぜられておりますが、このため学会誌、論文報告集等の郵便料は、年間約300万円の増加となり、このほか封書、はがき、速達料その他も追って値上げされると思われます。

(2) 印刷装本費：昨年度までは年々5~6%の値上げ率でありましたが、45年度からは10%の騰勢を示しています。

(3) 人件費：学会の職員給与は公務員給与に準じていますが、ベースアップは10%程度の上昇は今後も続くものと思われます。

5. 会費の推移

個人会員会費の今までの値上げの状況は次のとおりであります。

	昭32年度	35年度	37年度	41年度
正会員	1000円	1200円	1800円	2400円
学生会員	500 "	600 "	900 "	1200 "

すなわち、前回値上げされたのは昭和41年4月からで、以来5か年を経過したことになります。それ以前は3~4年に1回値上げが行なわれております。

また工学系他学会の値上げの状況は、すでに値上げの行なわれたところ、一部値上げをしたところ、46年から行なう予定のところ、47年に予定しているところなどとなっています。

6. 土木学会の活動

学会誌はまだ読みにくいという一部からの批判があります。編集委員会では、内容が豊富で読み易いということに苦心しています。

また土木学会には沢山の委員会があって、それぞれ活発に活動していますが、進歩のはげしい現在の世相に鑑みて、土木界が将来対処すべきいろいろの問題について、新しい委員会や懇談会を設けて、活動しています。その成果は順次学会誌に発表される予定です。

評議員選挙告示

昭和46年度評議員選挙を各支部ごとに4月末までに執行いたします。各支部の評議員新定数は、46年1月31日現在における所属会員数(規則第18条により)に比例、按分した結果下記のとおり。

支部	北海道	東北	関東	中部	関西	中国四国	西部	合計
評議員数	6	6	41	11	23	6	7	100

理事なうびに監事選挙告示

昭和46年度理事ならびに監事の選挙を46年4月末日までに執行いたします。

土木学会昭和46年全国大会・第26回年次学術講演会実施要領〈於仙台市〉

土木学会第26回年次学術講演会は、昭和46年度全国大会学術講演会として、昭和46年10月1日(金)、2日(土)、3日(日)の3日間、仙台市内において開催することになりました。

講演要領その他は下記のように決まりました。概要集作製は学会本部担当、プログラム編成は支部担当となっておりますので、講演申込先は東北支部、講演概要の原稿提出先は学会本部であります。講演希望者は期限までに講演申込み(期限5月10日東北支部へ必着)ならびに講演概要の原稿提出(期限6月30日土木学会本部へ必着)をして下さい。

記

1. 実施期日：昭和46年10月1日(金)、2日(土)、3日(日)
2. 実施場所：東北工業大学(仙台市長町越路19)
3. 講演要領：
 - ① 講演時間：講演時間は1題あたり約15分(質疑討論・交代時間を含む)とします。
 - ② 発表方法：研究論文は各部門とも、個人発表または総括報告形式として発表します。
個人発表は原則として1題ごとに質疑討論を行いません。
総括報告方式では同じ種別の論文数編ずつを、総括報告者がまとめて報告し、その後各著者への質疑討論を行いません。
 - ③ 方式の決定：個人発表とするか、総括報告形式とするかは、各自の希望を参考に学会で決定し、学会誌7月号に掲載します。
 - ④ 講演部門：講演部門は、つぎの5部門に分けます。
 - 第1部門：応用力学・構造力学・構造工学・橋梁一般・鋼橋など
 - 第2部門：水理学・水文学・河川工学・港湾工学・海岸工学・発電水力・衛生工学など
 - 第3部門：土質力学・基礎工学・岩盤力学など
 - 第4部門：道路工学・鉄道工学・交通計画・都市計画・国土計画・測量など
 - 第5部門：土木材料・土木施工法・コンクリートおよび鉄筋コンクリート工学など
4. 講演申込み：
 - ① 講演者の資格：講演者は個人の土木学会会員に限ります。連名者は、非会員でもさしつかえありません。
 - ② 講演内容：原則として未発表のものに限ります。
 - ③ 申込題数：全部門を通じて講演者1人1題に限ります。
 - ④ 申込方法：所定の申込カードを使用して下さい。申込カードは各支部に準備してありますから、所属支部へ請求して下さい。
 - ⑤ 申込期限：5月10日(月)必着のこと。期限後到着のものは受理できません。
 - ⑥ 申込あて先：下記へ直送して下さい。
〒980 仙台市二日町18-25 丸七ビル 土木学会東北支部内全国大会講演係
5. 講演概要原稿：
 - ① 概要の目的：講演概要は聴講者に内容を徹底させ、かつ来聴できない会員に、講演内容を速報するために作成します。
 - ② 内容：講演概要は一般会員がこれによって十分理解できるよう、研究の考え方と結論をわかりやすく書いて下さい。
 - ③ ページ数：原稿の長さは原則として2ページとします。超過する場合は4ページとします(4ページを超えるものは受け付けません)。
 - ④ 原稿用紙：原稿をそのまま縮写してオフセット印刷としますので所定の原稿用紙を用いて下さい。
原稿用紙は執筆要領とともに各支部に準備してありますから、所属支部へ請求して下さい。
 - ⑤ 提出期限：6月21日(月)必着のこと。期限までに原稿提出のないものは講演申込みを取消します。
 - ⑥ 提出あて先：下記へ直送して下さい。
〒160 東京都新宿区四谷1丁目 土木学会全国大会講演概要集係
6. 講演概要集頒布：講演概要集はすべて有料とし、無料交付はしません。学会誌7月号とじ込み予

定の購入申込書によってお申込み下さい（申込期限 8 月 31 日予定：申込先 土木学会東北支部内全国大会講演係、送本 9 月上旬予定、土木学会全国大会講演概要集係より送本します）。講演者（連名者を除く）には各自の原稿の別刷 30 部を贈呈しますが、特別の増刷はいたしません。

講演概要集申込みあて先

〒 980 仙台市二日町 18-25 丸七ビル 土木学会東北支部内全国大会講演係

7. 講演申込者へお願い：講演申込みならびに、講演概要原稿提出は必ず期限を守って下さい。期限後到着のものは、プログラム編成、概要集の編集と印刷の作業進行上全く余裕がありませんので受理いたしません。

講演申込カード必着日 5 月 10 日（月） 申込先 土木学会東北支部内全国大会講演係

講演概要原稿必着日 6 月 21 日（月） 提出先 土木学会本部内全国大会講演概要集係

講演・概要集・関係日程一覧

講演申込カード、原稿用紙、執筆要領	請求先 所属各支部
講演申込：申込期限 5 月 10 日（月）	申込先 土木学会東北支部内全国大会講演係
講演原稿：提出期限 6 月 21 日（月）	提出先 土木学会本部内全国大会講演概要集係
概要集購入：申込期限 8 月 31 日（火）	申込先 土木学会東北支部内全国大会講演係
概要集送本：予定日 9 月上旬	送付者 土木学会本部内全国大会講演概要集係

第 57 回通常総会開催のお知らせ<於東京>

▶ 5 月 28 日（金）◀

昭和 46 年の通常総会は、次の日程で東京において開催いたしますのでお知らせいたします。

1. 期 日：昭和 46 年 5 月 28 日（金）
2. 場 所：私学会館（東京都千代田区九段北 4-2-25・国電中央線市ヶ谷駅下車）
3. 次 第：総会（事業報告／決算報告／名誉会員推挙／土木学会賞の授与／新役員の紹介）

第 11 回地震工学研究発表会講演募集

下記により第 11 回地震工学研究発表会を開催致しますので、講演ご希望の方は、ふるってご応募下さい。

1. 期 日：1971 年 7 月 20 日（火）～21 日（水）
2. 会 場：土木学会土木図書館講堂
3. 募集規定
 - (1) 講演内容：理論、実験、耐震設計の実例、復旧工事、震害等
 - (2) 申込方法：4 月 17 日（土）までに題目、講演者氏名（連名の場合は登壇者に○印をつける）、勤務先、連絡先を明記し、土木学会耐震工学委員会宛お申込み下さい。
4. 講演概要原稿締切期日：6 月 5 日（土）厳守
講演概要はオフセット印刷致します。原稿の長さは 1 題目刷り 4 ページ以内（図・表・写真を含み 6480 字）とし、所定の原稿用紙にタイプまたはスミ書きにして下さい。講演の採否は土木学会耐震工学委員会にご一任下さい。なお、講演時間は、1 講演 15 分～20 分（質問時間を含まず）の予定です。

映画会開催について<於土木学会講堂>

▶ 3 月 13 日（土）◀

1. 場 所：土木図書館講堂（東京都新宿区四谷 1 丁目 国電・地下鉄四ツ谷駅下車）
2. 日 時：毎月第 2 土曜日 14.00～3 月は 13 日（土）です。
3. 上映映画：「東名高速道路」、「くつさく」、「近代化ヤードの誕生」
なお、上映映画は都合により変更することがございますので、あらかじめご了承ください。
4. 参加費：無料、土木関係以外の方も歓迎致します。

第2回海洋開発シンポジウム<於土木学会講堂>

▶4月17日(土)◀

昨年開催された第1回海洋開発シンポジウムは、多数の参加者をえ、有益な意見の発表、変換が行なわれました。また、参加者から第2回のシンポジウムを開催することが要望されました。

海洋開発プロジェクトでの土木学会の果たす役割は、土木技術者にとってますます大きな関心事となり、その活動はより各工学分野からも注目されております。

そこで、海洋開発委員会は話題を海洋構造物の設計、施工の具体的な問題を中心として、下記による第2回海洋開発シンポジウムを開催することになりましたので、多数の参加を希望いたします。

1. 期 日：1971年4月17日(土)
2. 時 間：9.30~16.00
3. 場 所：土木学会土木図書館講堂
4. 申込方法：参加希望者は、官製はがきに ① 氏名、② 勤務先、③ 連絡先を明記のうえ、4月9日までに土木学会事業課宛お申込下さい。
5. 参加費：未定(当日会場でお払込み下さい)。
6. プログラム：(予定ですので多少変更があるかも知れません)

9.30~9.45 開会挨拶	土木学会海洋開発委員会委員長 本間 仁
9.45~10.45 海洋の開発が環境に与える影響について	東海大学海洋学部 宇野木 早苗
10.45~11.45 海洋構造物用土木材料について	国鉄鉄道技研 樋口 芳朗
11.45~12.45 昼食休けい	
12.45~13.45 日石喜入大型シーパースの設計	大成建設 二階堂 守夫
13.45~14.45 海中展望台の設計と施工	日立造船 岡本 幸三
14.45~15.45 海洋掘削機の稼働について	インドネシア石油 山田 秀夫
15.45~16.00 閉会挨拶	本間 仁

なお、各講演時間には質疑応答の時間を含みます。

アルミナセメントコンクリートに関するシンポジウム論文募集

土木学会コンクリート委員会ではかねてよりアルミナセメントコンクリートの施工指針について検討してまいりましたが、原案がおおむねまとまりましたので、主要部分の説明のためのシンポジウムを企画しました。その際アルミナセメントコンクリートに関する研究の発表をもあわせて行ないますので、論文提出希望者はふるってご応募下さいますようご案内いたします。

1. 主 催：土木学会コンクリート委員会
2. 日 時：1971年6月16日(水)9.30~
3. 場 所：土木学会土木図書館講堂(東京都新宿区四谷1丁目無番地/国電地下鉄四ツ谷駅際外壕公園内/電話 03-351-5138 番)
4. 論文内容：アルミナセメントコンクリートの研究に関するものとし、施工・管理に関連したものも含みます。
5. 申込方法：3月16日までに土木学会コンクリート委員会(東京都新宿区四ツ谷1丁目)に標題および論文概要(200字以内)をそえて申込んで下さい。原稿用紙をお送りします。
6. 原稿提出：5月1日までに上記委員会に提出して下さい。原稿は学会指定のオフセット用原稿用紙を使用して下さい。原稿枚数は2枚とします。
7. 備 考：施工指針(案)の主要部分は研究論文とともに印刷し、当日配布します。論文の採否は印刷物の頁数に制限もあるので、上記委員会にご一任下さい。応募数により論文発表は、総括報告方式で行なうこともあります。
論文はコンクリート・ライブラリーとして印刷いたしますのであらためて原稿を提出して戴く予定です。この採否も上記委員会にご一任下さい。

鋼材・鋼構造の設計に関する講習会 <於土木学会講堂> ▶ 3月26日(金)~27日(土) ◀

主 催：東日本高校土木教育研究会
 後 援：鋼材クラブ・土木学会
 期 日：1971年3月26日・27日
 会 場：土木学会土木図書館講堂（東京都新宿区四谷1丁目・電 03-351-5138）
 参 加 費：1500円（テキスト別，なお，使用テキストは「土木技術者の鋼材知識」他を使用し当日1300円で販売致します）。
 定 員：80名
 申込み方法：
 申込先：東京都立田無工業高校建設科（東京都田無市向台町1の9の1・電 0424-64-2225）
 締 切：1971年3月10日
 プログラム
 第1日目（3月26日・金）
 9.00~9.25 受 付
 9.25~9.30 あいさつ
 9.30~11.00 鋼材について
 11.10~12.00 鋼構造設計の基礎
 13.00~14.30 継ぎ手の設計
 14.40~16.00 部材の設計
 第2日目（3月27日・土）
 9.30~12.00 構造設計例（合成桁） }
 13.00~15.30 構造設計例（トラス） }
 15.30~16.00 最近の話題
 （注）高校教職員は優先扱いと致します。

東日本高土協会長 相 川 秀 夫
 新日本製鉄（株） 田 中 茂 文
 東 京 大 学 伊 藤 学
 都 立 大 学 堀 川 浩 甫
 国 鉄 阿 部 英 彦
 横河橋梁（株） { 下石坂 克 典
 長谷川 脩 一
 本州四国連絡橋公団 田 島 二 郎

第2回安全工学国内シンポジウム <於東京> ▶ 5月27日(木)~28日(金) ▶

共 催：日本学術会議安全工学分科会・安全工学協会・電気学会・土木学会・日本化学会・日本機械学会・日本建築学会・日本鉱業会（*印は幹事学会）
 協 賛：未 定
 標記大会を次の要領で開催します（入場無料）ので，多数ご参加下さいませようご案内します。
 1. 日 時：1971年5月27日(木)，28日(金)2日間予定
 2. 会 場：日本学術会議講堂および会議室（東京都港区六本木）
 3. 講演申込要項：
 ① 内 容：1) 火災・爆発に関する安全工学， 2) 有害物質・有害環境に関する安全工学， 3) 人間と機械に関する安全工学， 4) 故障を含む信頼性工学， 5) 建設（土木・建築）に関する安全工学， 6) 電気に関する安全工学
 ② 申 込 先：安全工学協会 安全工学国内シンポジウム係 231 横浜市中区尾上町 4-47 大和銀行ビル3階 TEL (045) 641-3213
 ③ 講演申込締切：1971年3月1日(月)
 ④ 予稿原稿締切：1971年3月31日(水)
 ⑤ 申 込 書 式：1) 申込みは適当な用紙に下記の項目を書いて前記申込先へ3月1日(月)までにお送り下さい。発表者氏名（ふりがな），講演者に○印をつけて下さい。研究場所，講演題目，講演概要（プログラム編成のため）200字以内，連絡先（住所・氏名），所属学協会
 2) 申込みがあると折返しオフセット原稿用紙と予稿原稿の書き方を送付します。
 3) 原稿に必ず所定の原稿用紙（B4判）を使用し，図，表とも2枚とすること。
 ⑥ 講演について：1) 講演は1件15分（討論5分を含めて20分以内）とする。
 2) 申込講演の採択およびプログラム編成は本シンポジウム実行委員会の一任のこと。

北海道支部行事案内 (郵便番号 060 札幌市南1西2・勸銀ビル5階)
電話 0122-25-7038

年次研究発表会<於札幌市>

▶ 3月9日(火) ◀

入場無料・聴講歓迎・都合により期日と会場が次のとおり変更になりました。

1. 日 時: 1971年3月9日(火) 9.30 開会
2. 会 場: 建設会館9階3会場(札幌市北4西3)
3. 発表題目と発表者:

第1会場

- ① 9.40~等角写像法による平板の解析と計算 北大 渡辺 昇・○杉本 博之
- ② 9.55~せん断荷重による扇形平板曲げ応力性状について 北大 芳村 仁・○本多 祐也
- ③ 10.10~縦横リブを有する板の応力解析について 室工大 能町 純雄・松岡 健一・○大島 俊之
10.25~討 議 15分間
- ④ 10.40~多径連続桁の弾塑性解析法と計算 北大 渡辺 昇・○川瀬 健夫
- ⑤ 10.55~有限要素法による弾塑性解析法とその応用について 北大 渡辺 昇・大島 久・○川上 洵
11.10~討 議 10分間
- ⑥ 11.20~曲線立体トラス橋の断面力特性について 北大 渡辺 昇・金子 孝吉・○高野 護国
- ⑦ 11.35~曲線格子橋の実用解析法とその計算 北大 渡辺 昇・金子 孝吉・○高野 護国
11.50~討 議 10分間
- 12.00~昼食休憩
- ⑧ 13.00~曲線変断面梁の振動について 室工大 能町 純雄・松岡 健一・○佐渡 公明
- ⑨ 13.15~曲線箱桁の隔壁とそり応力について 開発局 吉田 絃一
13.30~討 議 10分間
- ⑩ 13.40~質点系に置換する方法による地盤の地震応答解析 北大 金子 孝吉
- ⑪ 13.55~帯板を要素とする弾性床板上板の解法について 室工大 能町 純雄・松岡 健一・○越後 隆一
14.10~討 議 10分間
- ⑫ 14.20~多面塊殻の応力解析について 室工大 能町 純雄・尾崎 詔・松岡 健一・○田島 照義
- ⑬ 14.35~トポロジカル一致を有するトラス間の関係について 室工大 能町 純雄・松岡 健一・○佐藤 隆
- ⑭ 14.50~スパン方向にヒンジ結合されたパイルによる平面構造について 室工大 能町 純雄・松岡 健一・○伊田 知之
15.05~討 議 15分間
15:20~終 了

第2会場

- ① 9.40~北海道中央部における降水量の相関分析-第2報- 北大 ○星 清・藤田 睦博・山岡 勲
- ② 9.55~水文学の一手法としての周波数特性のベクトル表示(そのⅢ) 北大 藤田 睦博
- ③ 10.10~融雪出水の予報 開発局 星野 英二
- ④ 10.40~振動流による底部摩擦の測定について 北大 新井 泰澄・村井 恰・○佐伯 浩
- ⑤ 10.55~一様斜面上における孤立波後の変形に関する研究-碎波後の変形- 北大 佐伯 浩・○宮川 孝仁・花安 繁郎
- ⑥ 11.10~透過性構造物の防波機能におよぼす抵抗係数と空隙率の効果 室工大 近藤 俊郎・藤間 聡
- ⑦ 11.25~2つの水路をもつ水域の潮位と水路潮流を求める簡略解 室工大 近藤 俊郎
11.40~討 議 20分間
12.00~昼 食 休 憩
- ⑧ 13.00~折板構造解析によるコンクリート桁橋の応力について 室工大 尾崎 詔
- ⑨ 13.15~2次せん断変形を考慮したねじり特性について 北大 ○佐伯 昇・横道 英雄
13.30~討 議 10分間
- ⑩ 13.40~鉄筋とコンクリートの付着応力分布に関する三次元応力的研究 室工大 松岡 健一
- ⑪ 13.55~傾斜法による鉄筋コンクリート断面の最適化 開発局 藤井 卓
14.10~討 議 10分間
- ⑫ 14.20~北海道産コンクリート用骨材の品質と使用法について 開発局 ○前川 静男・岡村 武
14.35~討 議 5分間
14.40~終 了

第3会場

- ① 9.40~斜張橋の斜吊材の取付部応力拡散について 室工大 能町 純雄・開発局 小西 輝久・道開発コンサルタント ○小谷和雄
- ② 9.55~斜張橋に用いたプレハブ平行線ケーブルに関する実験-石狩河口橋- 開発局 小西 輝久・○高橋 陽一・新山 博
10.10~室蘭港架橋計画試案について(1) 室工大 中村 作太郎
10.25~討 議 15分間
- ③ 10.40~帯広圏の交通量推定について 北大 五十嵐日出夫・○稲岡 英昭
- ④ 10.55~交通施設地域賦存度と諸経済指標との関係について 北大 小川 博三・五十嵐日出夫・○真木 浩之
11.10~討 議 10分間

- ⑥11.20～交差点における交通現象 —右折車両の動きについて—
北 大 板倉 忠三・加来 照俊・小笠原晋二・岸 憲之
室工大 齊 藤 和 夫
- ⑦11.35～交通事故発生に影響するマクロ的要因の多変量解析
11.50～討 議 10 分間
12.00～昼食休憩
- ⑧13.00～施工時におけるアスファルト合材の特性に関する一考察
室工大 新田 登・高橋 哲躬
- ⑨13.15～舗装表面用粗骨材のポリッシングについて
北 大 板倉 忠三・加来 照俊・山崎 正則
13.30～討 議 10 分間
- ⑩13.40～薬剤散布による融雪の基礎的実験について
開発局 高橋 毅・佐藤 馨一・島谷 浩・菊池 良治・平瀬 守
- ⑪13.55～すべり抵抗試験車用のすべり率可変装置の試作および各種測定法で得られた氷面上のすべり抵抗係数の要因分析
北 大 板倉 忠三・加来 照俊・田中 良弘・小野寺雄輝
開発局 ○高橋 毅・佐々木政男・佐藤 馨一・佐藤 武
- ⑫14.10～雪氷路面のすべりまきつ係数について
14.25～討 議 15 分間
- ⑬14.40～青函トンネルにおけるトンネル掘進機の掘きく実績について
青 函 進 藤 卓
- ⑭14.55～青函トンネルにおける岩盤注入について
青 函 横 山 章
15.10～討 議 10 分間
15.20～終 了
4. 論文集の刊行：以上の発表内容は“論文集等 27 号”として本印刷刊行します。
5. 論文集の頒布：1部 ￥700（会員は無料事前配布）当日会場でも頒布します。

東北支部行事案内 (郵便番号 980 仙台市二日町 18-25・丸七ビル)
電話 0222-22-8509

(1) 技術研究発表会<於仙台市>

▶ 2 月 23 日 (火) ◀

1. 期 日：1971 年 2 月 23 日 (火)
2. 場 所：宮城県民会館 3 号室，4 号室 (6 階)，仙台市国分町 3-3-7
3. 定 員：200 名 参加費無料 (ただし講演概要集は希望者によりのみ当日会場にて実費頒布)
4. 申 込 先：土木学会東北支部へ 2 月 21 日までに勤務場所，氏名を電話またははがきにてお申込み下さい。
5. プログラム：(○印は連名の場合の発表者)

開 会 あ い さ つ

東北支部幹事長 浅 間 隆

第 1 部 門 (6 階 3 号室)

- ① 落下水の空気混入の実験
東北大学 坂本 竜雄・村上 和男・吉村 敦
- ② 内部ジャンプの実験的研究
東北大学 岩崎 敏夫・上原 忠保・畑中仁一郎
- ③ 鮫川河口の水理について
東北大学 岩崎 敏夫・工藤 泰吾・内山 陽一・東北工業大学 古川 光一
- ④ 土砂の集合運搬に関する基礎実験 (その 1)
日本大学 木村喜代治・高橋 通夫・高橋 幸規・長林 久夫
- ⑤ 淡水水界面における内部波に関する研究
東北大学 岩崎 敏夫・日下 理・宝田 盛康
- ⑥ 流れを遡る波の境界層
東北大学 岩崎 敏夫・佐藤 道郎
- ⑦ 仙台港における波浪特性
塩釜港工事事務所 佐藤 勝
- ⑧ 八戸港八水郎港内の波について (模型実験と実測値との比較)
八戸港工事事務所 岩 淵 栄 一
- ⑨ 津波に対する矩形湾の Q 値に関する研究
東北大学 岩崎 敏夫・佐藤 栄司・新井 信一・板橋勝一郎
- ⑩ 津浪の湾内振動特性と汀線波高および陸上遡上高の関係
東北大学 富 樫 宏 由
- ⑪ 混成防波堤ケーソンの沈下について
小名浜港工事事務所 沼 下 捷 洋
- ⑫ 仙台港南防波堤における沈下について
塩釜港工事事務所 佐々木 忠 男
- ⑬ 小名浜港における波濺船の稼働実績の分析
小名浜港工事事務所 村 田 充
- ⑭ 秋田港における波濺船の稼働実績について
秋田港工事事務所 高 田 満 夫
- ⑮ 広域貨物流動について
塩釜港工事事務所 小野川 繁 澄
- ⑯ パーソントリップ調査分析による秋田市の通勤通学交通に関する考察
秋田大学鉱山学部 清水浩志郎・高橋 正広・源馬 哲
- ⑰ 交通事故の発生変動に及ぼす要因分析
秋田大学 清水浩志郎・下舞 修三
- ⑱ 通勤通学交通に関する研究
秋田大学 清水浩志郎・河合 収造
- ⑲ 球形粗粒層の透水について
日本大学 安田 禎輔・藤田 竜之
- ⑳ 名取川水系の水質調査について
東北大学 佐藤 敦久・浜谷 光昭・千葉 信男・熊谷 幸博
- ㉑ 河川の自浄作用に関する調査—広瀬川における調査—
東北大学 松本順一郎・東北工業大学 大沼 正郎・東北大学 ○我妻 貞真
東北大学 松本順一郎・東北工業大学 大沼 正郎・東北大学 ○本田 善則
- ㉒ 放射能公害防止に関する基礎研究—凝集沈澱とイオン交換による $^{137}\text{Cs}^{90}\text{Sr}$ の除去—
東北大学 下飯坂潤三・細岡 正和
- ㉓ 表面曝気のプロローパターン 1. たて型式
東北工業大学 ○大沼 正郎・羽田 守夫
- ㉔ 表面曝気のプロローパターン 2. よこ型式
東北工業大学 大沼 正郎・○羽田 守夫
- ㉕ 気泡によって誘起される流れの状態について
東北大学 ○中村 玄正・高橋 克夫
- ㉖ 気泡エアレーションの端効果について
東北大学 中村玄正・仙台市下水道部 ○菅田秀徳・東北大学 小松誠之助

- ㉔ 活性汚泥の吸着現象に関する一考察 東北大学 江 成 敬次郎
- ㉕ 醸造廃液の好気性消化処理について 福島工業高等学校 酒井満夫・東北大学 ○桃井清至・中山通生
- ㉖ 嫌気性消化槽に対する重金属塩の衝撃負荷について 東北大学 ○野池 隆也・和田 康三

第 2 部 門 (6 階 4 号室)

- ① 石炭灰を主原料とする硬化体の研究 東北大学 後藤 幸正・外門 正直・北沢 幸雄・杉山 嘉徳
東北電力 石垣 茂・三浦 忠
- ② 生石灰による土の含水比低下に関する実験的研究(その1) 岩手大学 石 田 宏
- ③ 極く早期村合におけるコンクリートのひびわれについて 東北大学 大塚 浩司・○大川 博
- ④ ポンプ輸送時の圧力が軽量骨材コンクリートにおよぼす影響に関する研究 東北大学 後藤 幸正・外門 正直・杉山 嘉徳・○小林 茂樹
- ⑤ 異形鉄筋の重ね継手に関する研究 東北大学 後藤 幸正・○大塚 浩司・村山 哲夫・高梨 洋治
- ⑥ 異形鉄筋の定着部に関する二、三の実験 東北大学 大塚 浩司・○佐藤 良一・和田 信秀
- ⑦ 鉛直な人工ひびわれを持つ鉄筋コンクリート梁の破壊実験 日本大学 原 忠勝・大林 昇・○柳沼 英治
- ⑧ 鉄筋コンクリート梁の破壊機構に関する考察 日本大学 原 忠勝・○大塚 孝義
- ⑨ PCプレキャストブロックの接合部についての一実験 東北大学 後藤 幸正・外門 正直・阿部 喜則・○中島二三夫
- ⑩ プレストレストコンクリートPC鋼棒の集中定着工法について 東日本コンクリート 安 藤 喜平治
- ⑪ ケーソンコンクリートの標準養生と現場養生の比較について 塩釜港工事事務所 田 沢 則 彦
- ⑫ 八戸港におけるケーソン製作の養生について 八戸港工事事務所 類 賀 幸 男
- ⑬ 宮古港におけるコンクリートポンプの施工について 宮古港工事事務所 阿 部 強
- ⑭ コンクリートミキサー船の性能について 小名浜港工事事務所 津 田 青 記
- ⑮ コンクリート舗装の路盤に関する一考察 東北大学 福 田 正
- ⑯ 数値のファイラーを用いたアスファルト混合物の実験 東北大学 ○遠藤成夫・埼玉県 田 中 龍
- ⑰ マーシャル試験によるアスファルト混合物の細骨材粒度の変動についての実験 東北大学 福 田 正・遠藤 成夫・○山崎 克範
- ⑱ 宮城県産の瀝青舗装用砕石について 東北工業大学 高橋 彦人・○石井 孝道
- ⑲ 路床材としての阿武隈山地のマサ土について 道路公団仙台建設局 ○永末 信・明治コンサルタント 福山 芳郎
- ⑳ 気仙沼線幸川付近軟弱地盤盛土施工の継続経過について 鉄道建設公団 岡 崎 準
- ㉑ 主応力比と砂の変形係数 東北大学 ○諸戸 靖史・若林 良二・佐武 正雄
- ㉒ 振動時に形成される砂状体の斜面について 東北大学 ○関 田 欣 治
- ㉓ 粒状体の動的せん断強さについて 東北大学 柳 沢 兼 司・○阿部 裕
- ㉔ 振動衝撃によるエポキシ樹脂の動的性質に関する研究 東北大学 ○秋田 宏・西口 泰夫・黒岩 隆
- ㉕ 羽越本線折波トンネル(膨脹性地質)の施工について 国鉄盛岡工事局 畑 知 良
- ㉖ 奥羽本線大平山トンネルにおけるトンネルボーリングマシン施工について 国鉄盛岡工事局 大 浦 勲
- ㉗ なだれ防災工法中特に圧縮工法について 北日本警害研究所 ○小林 文明・日本大学 新田 亮
- ㉘ 青森港北防波堤の設計条件および構造の選定について 青森港工事事務所 佐々木 清 六
- ㉙ 石巻工業港中島埠頭における変断面組合せ鋼矢板壁の応力測定について 東北大学 佐 武 正 雄
- ㉚ ウェイト・マトリックの有限要素法への応用 東北大学 ○田野 久貴・宮城県石巻港工事事務所 坂 東 浩
カリフォルニア大学 伊藤 駿・佐武 正雄・○新岡 芝

(2) 昭和 46 年度東北支部総会 <於仙台市>

▶ 5 月 12 日 (水) 16.00~◀

1. 場 所: 建設会館 6 階 (仙台市上杉 1 の 4 の 20)
2. 議 題: ①昭和 45 年度事業報告および決算報告の承認
②昭和 46 年度事業計画および予算の報告
③役員改選の報告
④映画 北上川 (50 分)
⑤懇 談 会 (18.00)

◎この会告をもって総会開催の通知といたします。なお総会后 17.00 より懇親会を催します(会費 1000 円)。準備の都合がありますので、総会ならびに懇親会に参加の方は 5 月 10 日までにお知らせ下さい。

土木用語辞典近く完成

土木学会監修の土木用語辞典は間もなく編集作業を終了し、近く販売を開始する予定です。申込み方法その他詳細については次号でお知らせします。

体 裁: B 6 判 1500 ページ

定 価: 5500 円 特価: 5000 円 (特価期間: 1971 年 6 月 30 日まで)

発 売 日: 1971 年 4 月 15 日

関西支部行事案内 (郵便番号 541 大阪市東区船場中央 2 丁目 2 番地 船場センタービル 4 号館 409 号) 電 06-271-6686 振替口座 大阪 82599 番

(1) 講習会「構造物設計法の最近の進歩と問題点」

▶ 3 月 23 日 (火)~24 日 (水) ◀

1. 日 時: 1971 年 3 月 23 日 (火), 24 日 (水) 9.00~16.00
 2. 場 所: 大阪科学技術センター 8 階大ホール 電話 大阪 (06) 443-5321 番
 大阪市西区靱 1 丁目 118 番地 (地下鉄四ツ橋線本町下車北へ 150 m 靱公園北東角)

3. 題目と講師:

第 1 日 (3 月 23 日)

- 開 会 換 拶
 9.10~10.30 ① 鋼構造物の極限強度設計法
 10.40~12.00 ② 構造物の最小重量設計法
 13.00~14.20 ③ 構造物の限界状態設計法
 14.30~16.00 ④ 構造物の立体解析法

- 土木学会関西支部長 福山真三郎
 大阪大学教授工学部 工博 小松 定夫
 大阪市立大学教授工学部 工博 倉田 宗章
 大阪大学教授工学部 工博 前田 幸雄
 大阪工業大学助教授 岡村 宏一

第 2 日 (3 月 24 日)

- 9.10~10.30 ⑤ 最適設計の概念と今後の問題点
 10.40~12.00 ⑥ 骨組構造物の最適設計
 13.00~14.20 ⑦ 耐震設計法の問題点
 14.30~16.00 ⑧ 耐風設計法の問題点
 閉 会 換 拶

- 京都大学教授工学部 工博 山田 善一
 愛媛大学助教授工学部 工修 大久保禎二
 京都大学教授工学部 工博 後藤 尚男
 京都大学助教授工学部 工博 白石 成人
 土木学会関西支部幹事長 岡田 清

4. 定 員: 300 名 (先着順)

5. 参 加 費: 会員 1700 円 (テキスト代を含む)

ただし講習会当日は 2200 円となりますので期限内に前納して下さい。

非会員 2200 円 (テキスト代を含む)

6. 申 込 期 限: 1971 年 3 月 5 日 (金)

7. 申 込 方 法: 参加希望者は勤務先, 連絡先, 氏名および会員の種別を明記 (様式随意) し, 上記参加費を添えて土木学会関西支部へお申込み下さい。

参加者には参加証をお送りしますから当日は必ずご持参下さい。

参加証のない人は入場をお断りします。

(注) 都合により講師の順序に変更があるかも知れませんのでご了承下さい。

土木学会出版物のマイクロフィッシュフィルムによる複写と販売について

土木学会では, かねてより学会出版物のマイクロフィルム化につき検討を進めてまいりましたが, このほど一部出版物をフィッシュフィルムに撮影, それを複写フィルムにコピーして希望者に販売することにしました。

マイクロフィッシュとは, 土木学会誌 55-2 (昭和 45 年 2 月号) に紹介されているように, ハガキ大のフィルムの中に 60 ページの文献を収録でき, フィルムはマイクロフィルムリーダーによって拡大して読み取るか, 必要によっては各ページを 5 秒間位でハードコピーにとることもできファイリングも楽です。それにともなって製本保存の廃止による書庫スペースおよび製本費の節減, バックナンバーの補充, 雑誌類の重複購入の防止などの利点があります。その反面, フィルムリーダーなど機器類の購入の必要性, フィルム取扱い上の若干の注意などの問題点もあり, 個人のためよりも資料室, 図書室など集団的な利用が中心となります。

当面は土木工学科新設校等の希望を入れ, バックナンバーが比較的揃いにくいと思われる学会出版物からフィッシュ化を実施する予定です。検索に多くの利点を持ち, 少量部数の出版にはコストの廉価なマイクロフィッシュによる出版を, 皆様のご希望等により今後も引き続き企画したいと考えております。情報管理の合理化のため各位のご利用をお待ちいたしております。

記

1. 土木学会誌, 論文集総索引 (創立 50 周年記念出版)

合計 252 ページ 5 シート 1,600 円 (送料とも)

2. 土木学会論文集 第 1 号 (昭和 19 年) より第 124 号 (昭和 40 年) まで

合計 8,000 ページ 206 シート 62,100 円 (送料とも)

3. 土木学会誌 第 1 巻第 1 号 (大正 4 年) より第 50 巻第 12 号 (昭和 40 年) まで

合計 70,000 ページ 1,428 シート 357,000 円 (送料とも)

なお, 以上に関しては代理店が業務を扱いますので詳細は, 土木学会土木図書館 (〒 160 東京都新宿区四谷 1 丁目 土木学会内) TEL 351-5138 (代表) へお問合せください。